

令和 8 年度障がい福祉アンケートの結果について

1 アンケート実施概要

(1) 発 出 日 令和 8 年 6 月 15 日

(2) 提出期限 令和 8 年 7 月 13 日 (ポスト投函期限)

(3) 対 象 250 人

以下の①～⑥を対象者として、対象数を抽出

対象者	対象数
① 身体障害者手帳所持者	50 人
② 療育手帳所持者	50 人
③ 精神手帳所持者	52 人
④ 自立支援医療受給者	20 人
⑤ 難病患者	50 人
⑥ 伊那支援学校児童・生徒 (箕輪町)	28 人

※今年度入学性を除く全箕輪町在住生徒

(4) 回 答 数 111 人 (回収率 44.4%)

(5) そ の 他

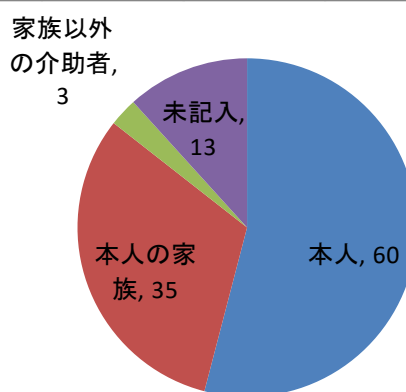
- ・回答は任意として保護者や介護者の代筆での回答も認める
- ・回答は匿名とし、匿名性を守るため、アンケート調査については紙媒体のみとする。
- ・抽出の際は、可能な範囲で障がいの度合いや施設、GH 入所者、居宅のバランスが取れるようにする。
- ・抽出条件が重複するものについては 1 回のみの回答とする。

アンケート結果のまとめ

① 年齢・家族などについて

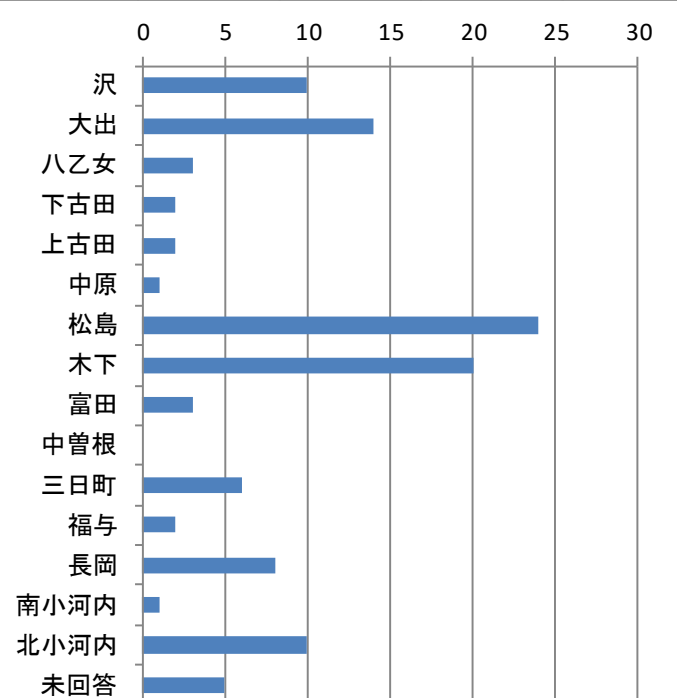
問1 お答えいただくのはどなたですか。

本人	60
本人の家族	35
家族以外の介助者	3
未記入	13
未回答	139
計	250



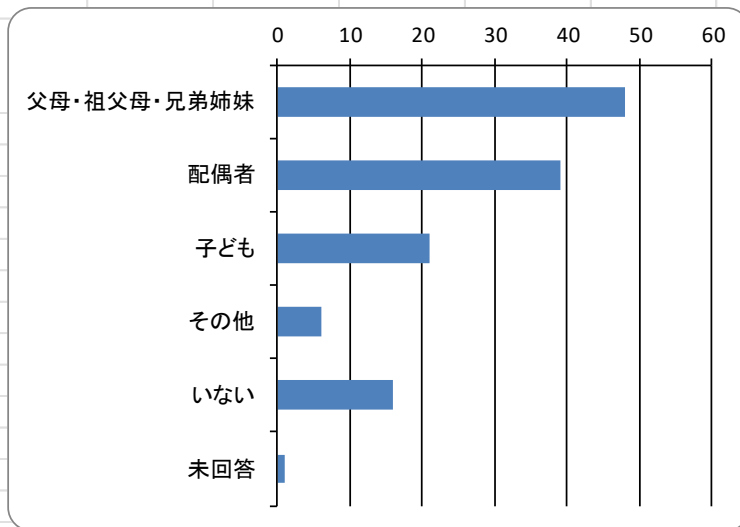
問3 あなたがお住まいの地区はどこですか。

沢	10
大出	14
八乙女	3
下古田	2
上古田	2
中原	1
松島	24
木下	20
富田	3
中曽根	0
三日町	6
福与	2
長岡	8
南小河内	1
北小河内	10
未回答	5
計	111



問4 現在、あなたが一緒に暮らしている人は、どなたですか。

父母・祖父母・兄弟姉妹	48
配偶者	39
子ども	21
その他	6
いない	16
未回答	1
計	
重複あり	

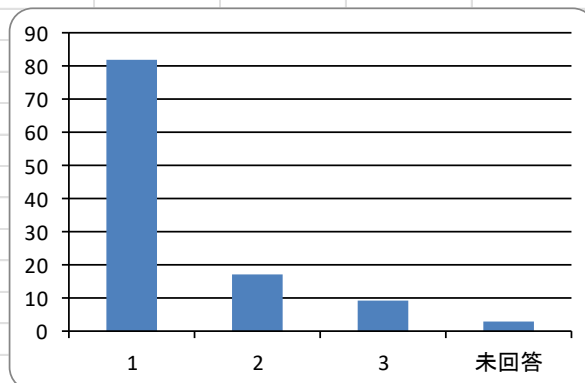


「家族と暮らしている」人が多く、特に父母・祖父母・兄弟姉妹、配偶者との同居が中心となっている。一方、一人暮らしも一定数いる。

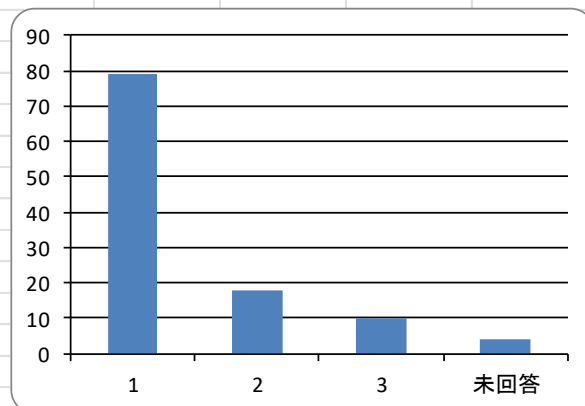
問5 日常生活で、次のことをどのようにしていますか。

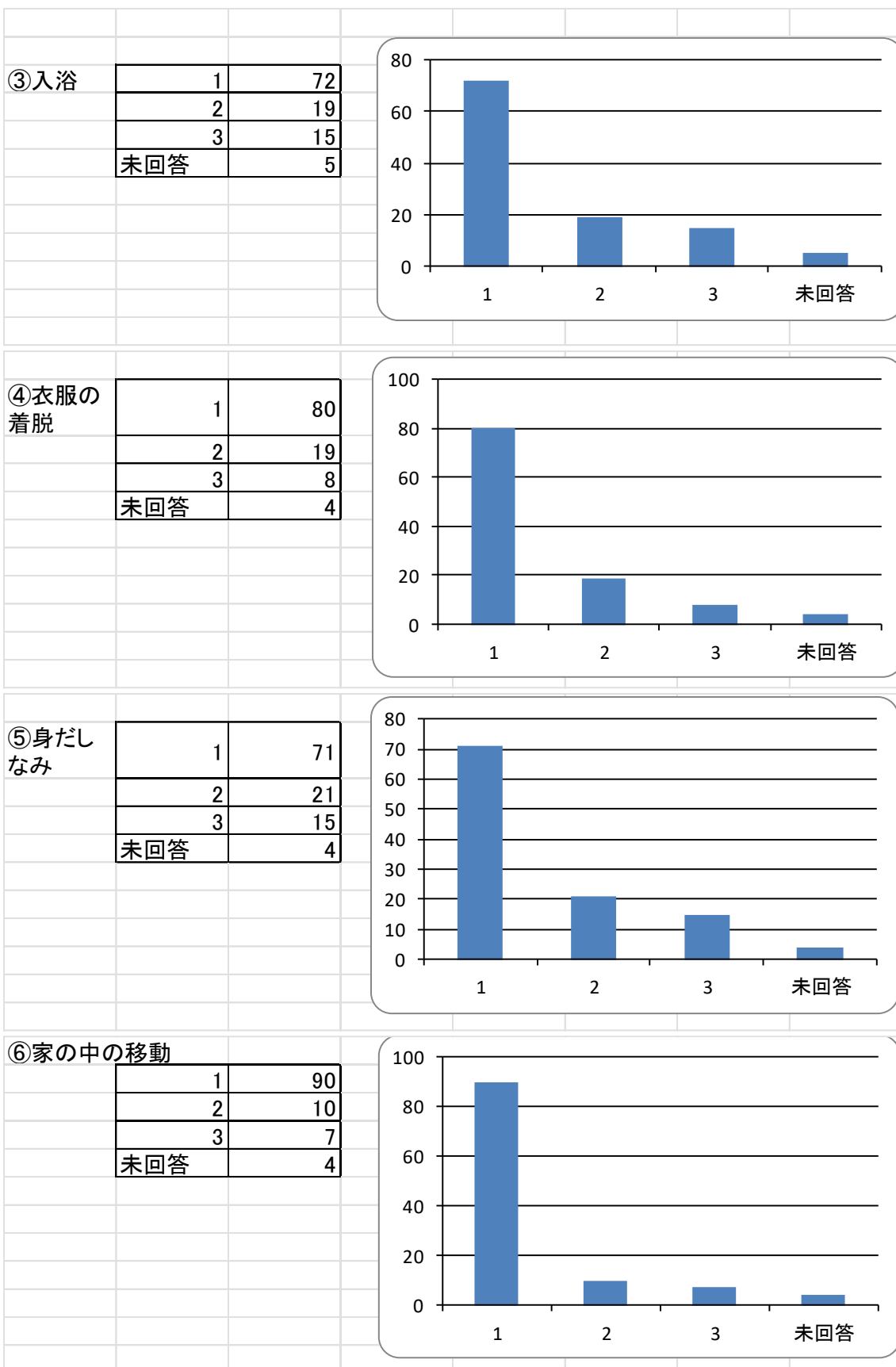
- 1 一人できる
- 2 一部介助が必要
- 3 全部介助が必要

①食事	1	82
	2	17
	3	9
	未回答	3



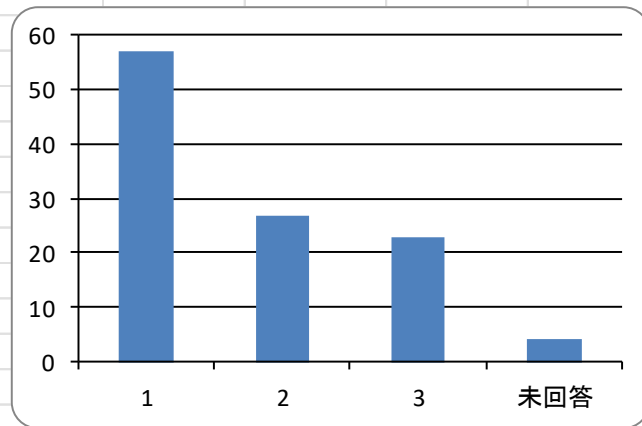
②トイレ	1	79
	2	18
	3	10
	未回答	4





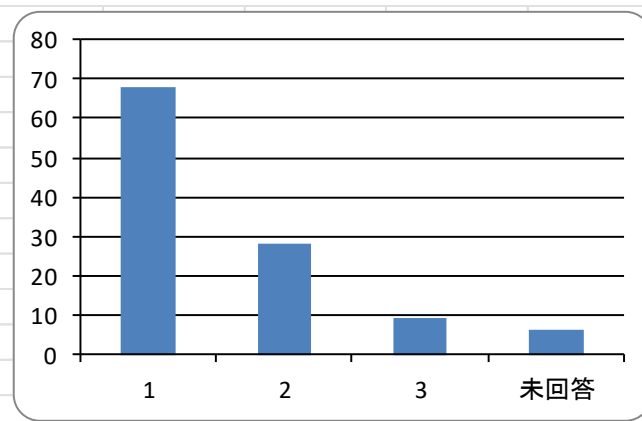
⑦外出

1	57
2	27
3	23
未回答	4



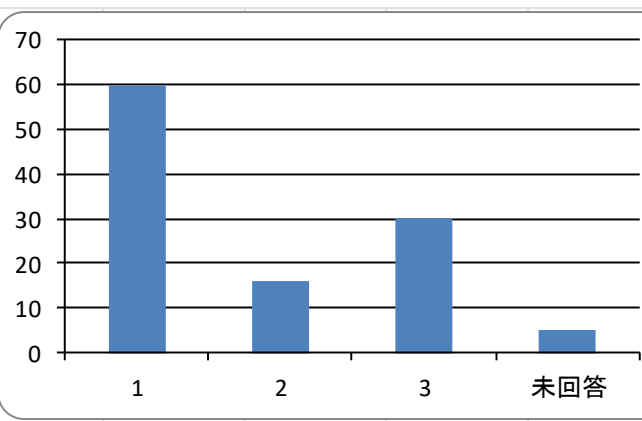
⑧家族以外の人との意思疎通

1	68
2	28
3	9
未回答	6



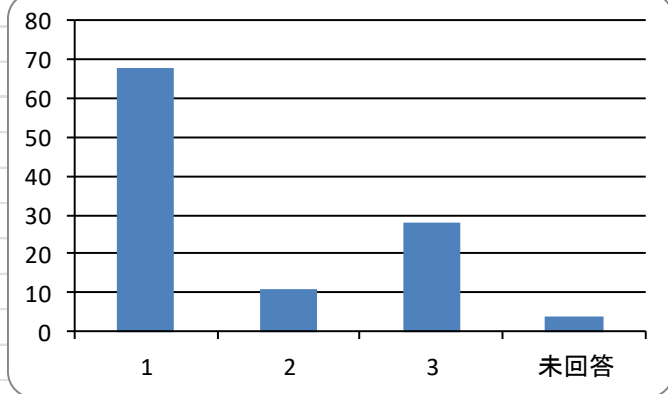
⑨お金の管理

1	60
2	16
3	30
未回答	5



⑩薬の管理

1	68
2	11
3	28
未回答	4

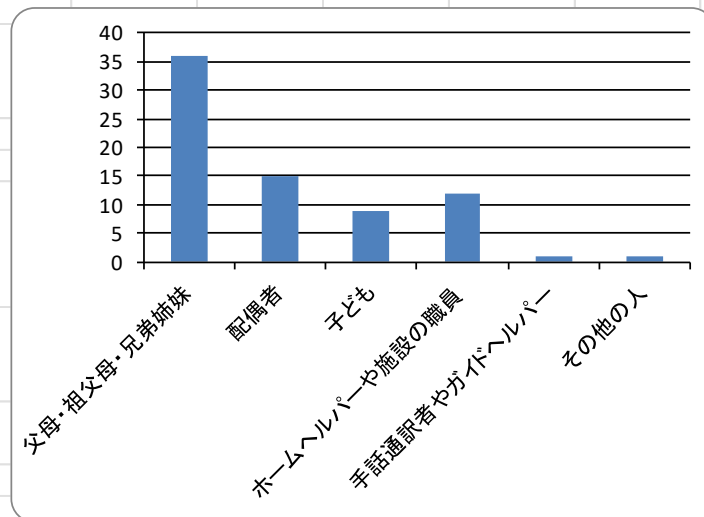


食事や家の中の移動などは一人でできる人が多い。一方、外出、お金の管理、薬の管理、入浴などでは介助を必要とする人が比較的多い。

(問5で、一つでも「一部介助が必要」又は「全部介助が必要」と答えた方)

問6 あなたを介助している人は誰ですか。(複数回答)

父母・祖父母・兄弟姉妹	36
配偶者	15
子ども	9
ホームヘルパーや施設の職員	12
手話通訳者やガイドヘルパー	1
その他の人	1
計	74

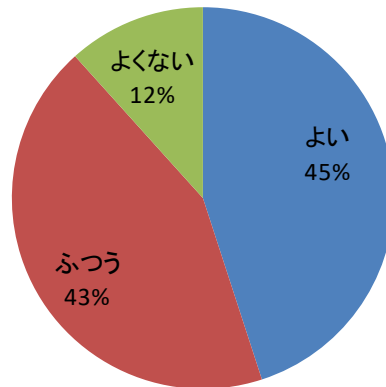


主な介助者は父母・祖父母・兄弟姉妹などの家族が中心で、配偶者や子ども、ホームヘルパー・施設職員なども介助を担っている。

(問6で「父母・祖父母・兄弟姉妹」「配偶者」「子ども」のいずれかを選択した方)
問7 あなたを介助している方で、特に中心になっている方の年齢・健康状態
をお答えください。

③健康状態

よい	27
ふつう	26
よくない	7
計	49

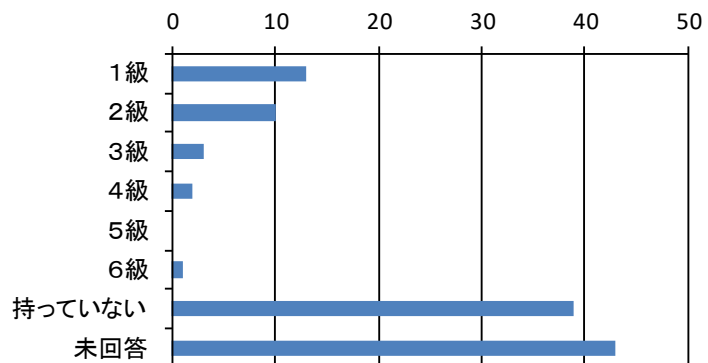


中心となる介助者は「健康状態がよい」「ふつう」が多いが、「よくない」とする人もおり、介助者自身への支援も必要と考えられる。

② あなたの障がいの状況について

問8 あなたは「身体障害者手帳」をお持ちですか。

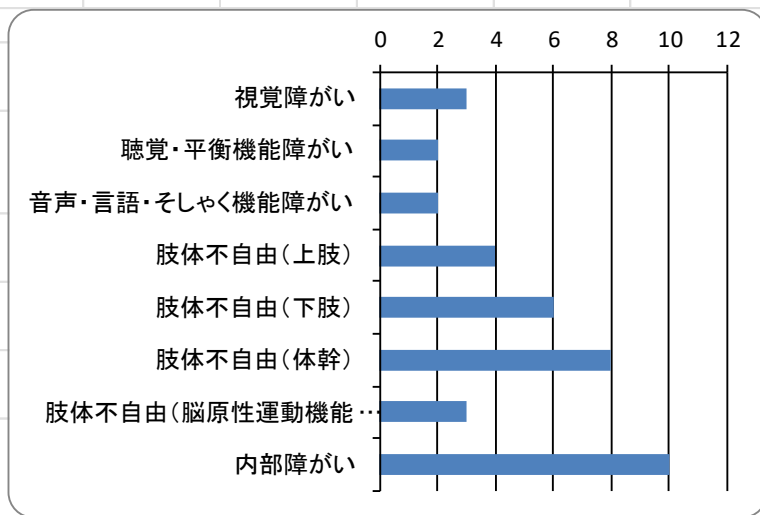
1級	13
2級	10
3級	3
4級	2
5級	0
6級	1
持っていない	39
未回答	43
計	111



所持者では1・2級など比較的重度の人もある。

問9 「身体障害者手帳」をお持ちの場合、主たる障がいを教えてください。

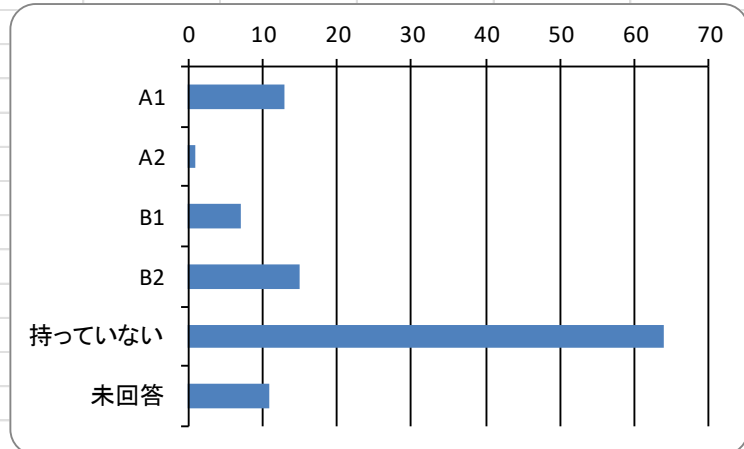
視覚障がい	3
聴覚・平衡機能障がい	2
音声・言語・そしゃく機能障がい	2
肢体不自由（上肢）	4
肢体不自由（下肢）	6
肢体不自由（体幹）	8
肢体不自由（脳原性運動機能障がい）	3
内部障がい	10
計	27



内部障がい、肢体不自由（体幹・下肢など）が比較的多い。

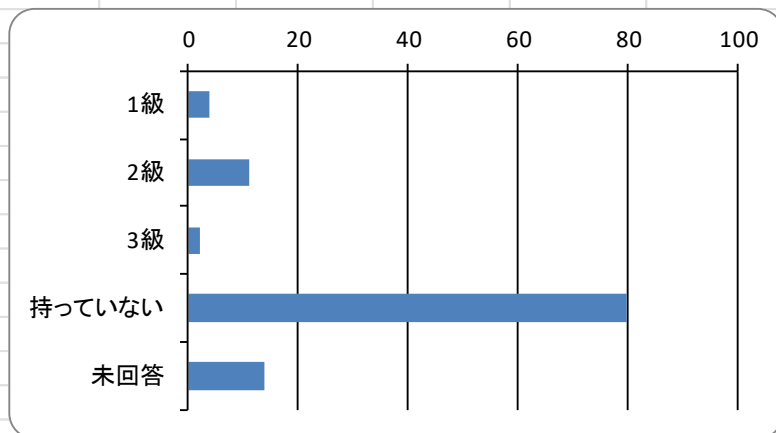
問10 あなたは「療育手帳」をお持ちですか。

A1	13
A2	1
B1	7
B2	15
持っていない	64
未回答	11
計	111



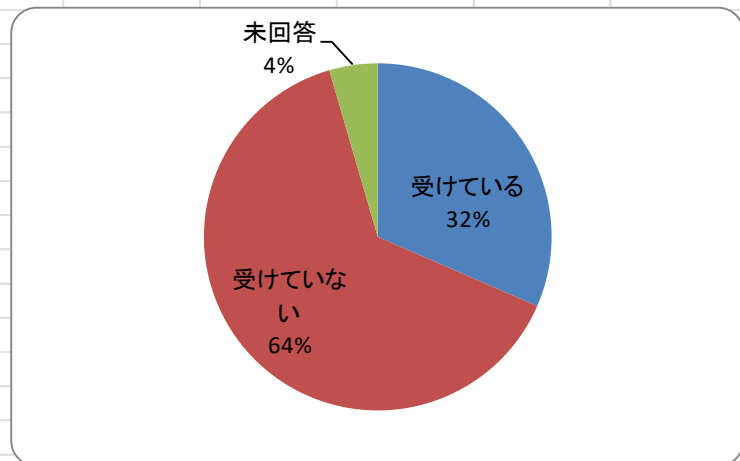
問11 あなたは「精神障害者保健福祉手帳」をお持ちですか。

1級	4
2級	11
3級	2
持っていない	80
未回答	14
計	111



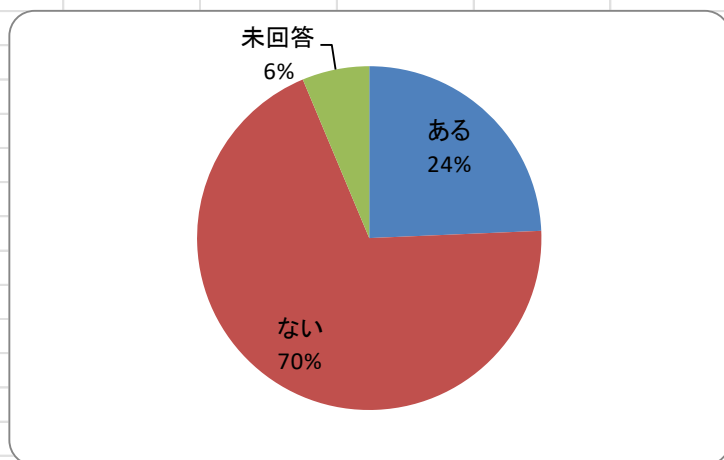
問12 あなたは難病の認定を受けていますか。

受けている	35
受けていない	71
未回答	5
計	111



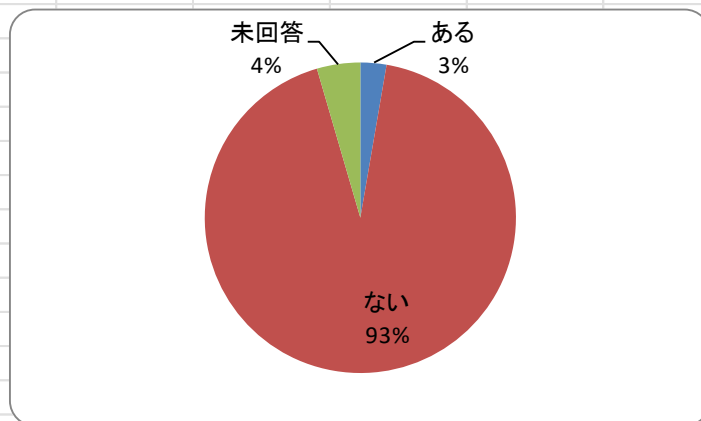
問13 あなたは発達障がいとして診断されたことがありますか。

ある	27
ない	77
未回答	7
計	111



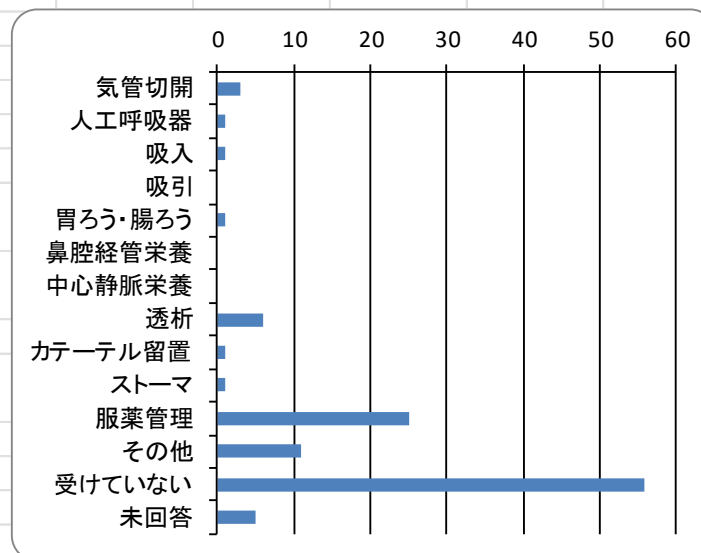
問14 あなたは高次脳機能障がいとして診断されたことがありますか。

ある	3
ない	103
未回答	5
計	111



問15 あなたが現在受けている医療的ケアをお答えください。

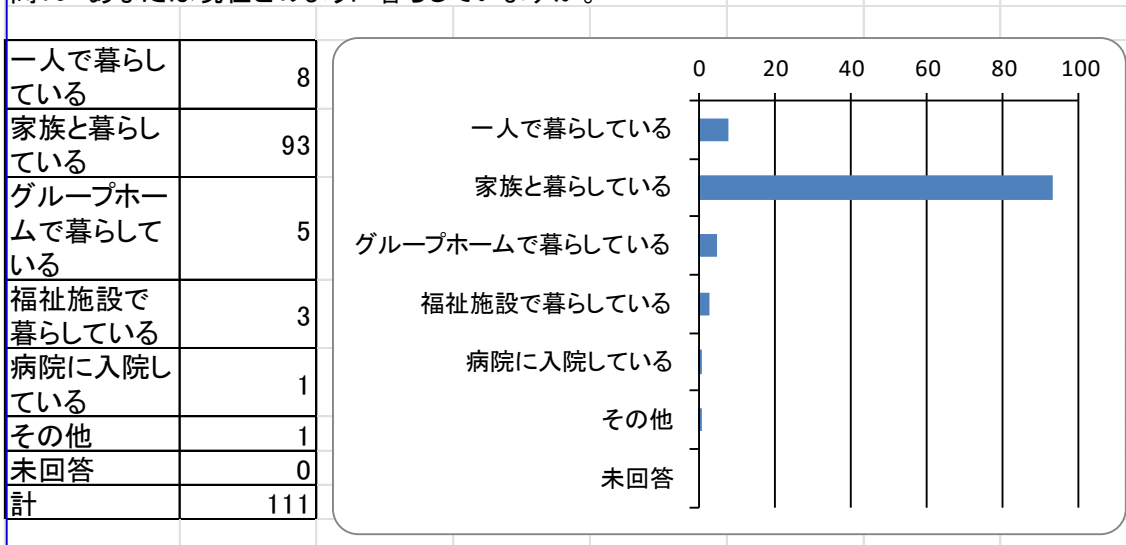
気管切開	3
人工呼吸器	1
吸入	1
吸引	0
胃ろう・腸ろう	1
鼻腔経管栄養	0
中心静脈栄養	0
透析	6
カテーテル留置	1
ストーマ	1
服薬管理	25
その他	11
受けていない	56
未回答	5
計	111



服薬管理が最も多く、透析などの医療的ケアを受けている人もいる。一方、医療的ケアを受けていない人も多い。

③ 住まいや暮らしについて

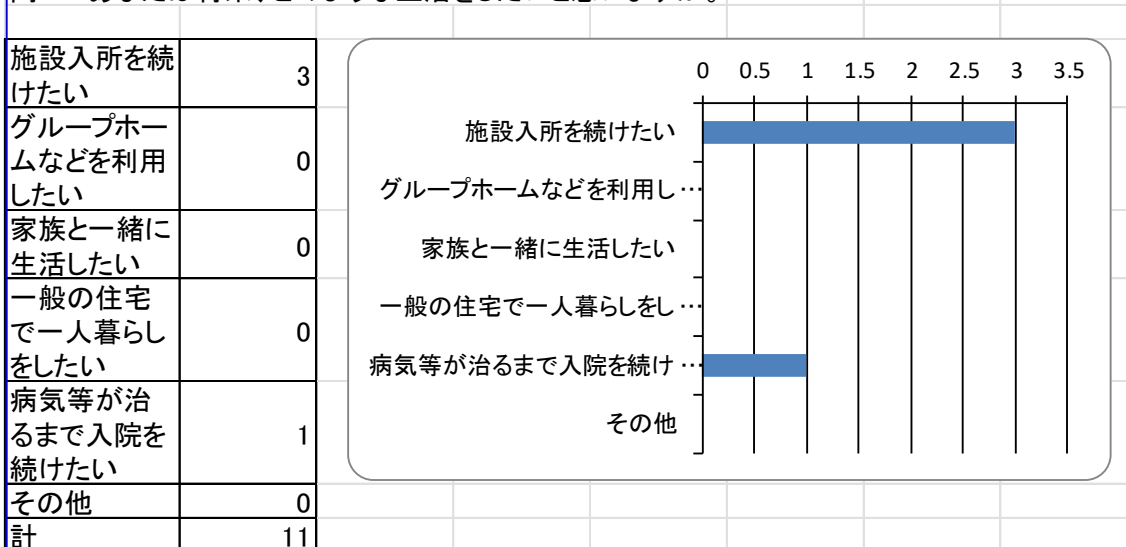
問16 あなたは現在どのように暮らしていますか。



「家族と暮らしている」が93人と大半を占める。一人暮らしやグループホーム、福祉施設などで暮らす人もアンケートを回答していただいた。

(問16で「福祉施設で暮らしている」「病院に入院している」と回答した方)

問17 あなたは将来、どのような生活をしたいと思いますか。

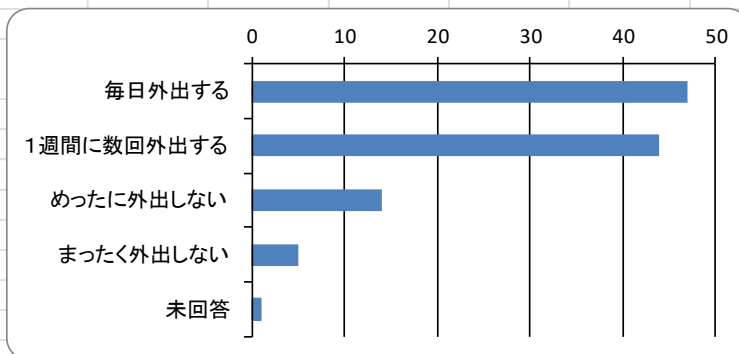


施設入所を継続したい人や入院継続を希望する人がいる。回答者数が少ないため、個別の希望を丁寧に把握する必要がある。

④ 日中活動や就労について

問18 あなたは1週間にどの程度外出しますか。

毎日外出する	47
1週間に数回外出する	44
めったに外出しない	14
まったく外出しない	5
未回答	1
計	111

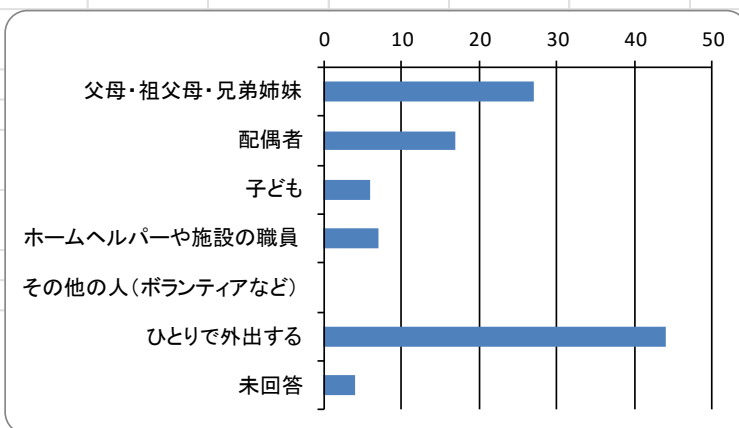


「毎日外出」「週に数回外出」が大半で、外出する人が多い。一方、外出が少ない・全くない人もいる。

【問19～問23は、問18で「まったく外出しない」と回答した以外の方への質問(n=118)】

問19 あなたが外出する際の主な同伴者は誰ですか。

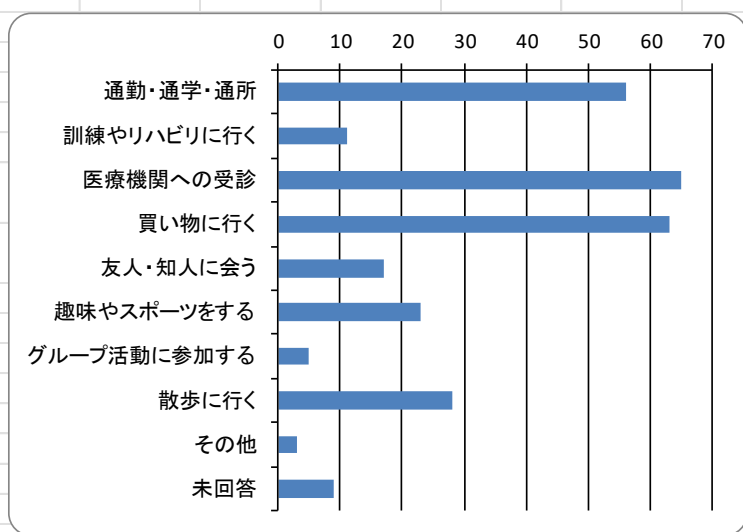
父母・祖父母・兄弟姉妹	27
配偶者	17
子ども	6
ホームヘルパーや施設の職員	7
その他の人(ボランティアなど)	0
ひとりで外出する	44
未回答	4



一人で外出する人が最も多い一方、家族が同伴する人も多く、外出時の家族支援が重要となっている。

問20 あなたは、どのような目的で外出することが多いですか。(複数回答)

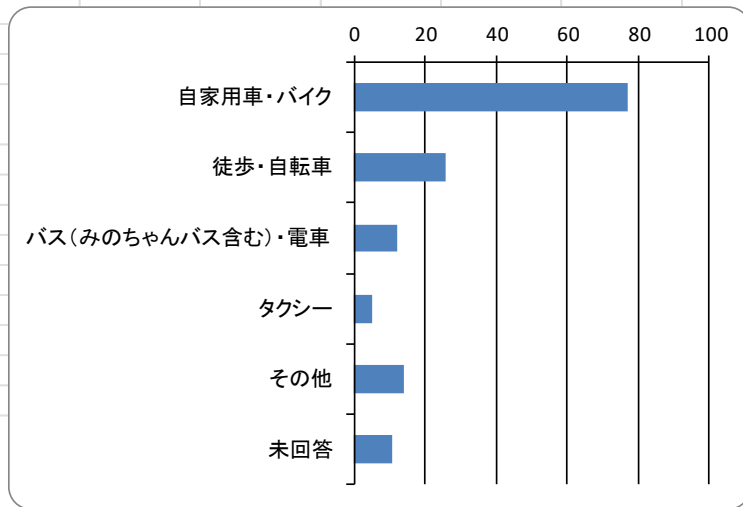
通勤・通学・通所	56
訓練やリハビリに行く	11
医療機関への受診	65
買い物に行く	63
友人・知人に会う	17
趣味やスポーツをする	23
グループ活動に参加する	5
散歩に行く	28
その他	3
未回答	9



医療機関への受診、買い物、通勤・通学・通所が主な目的となっている。

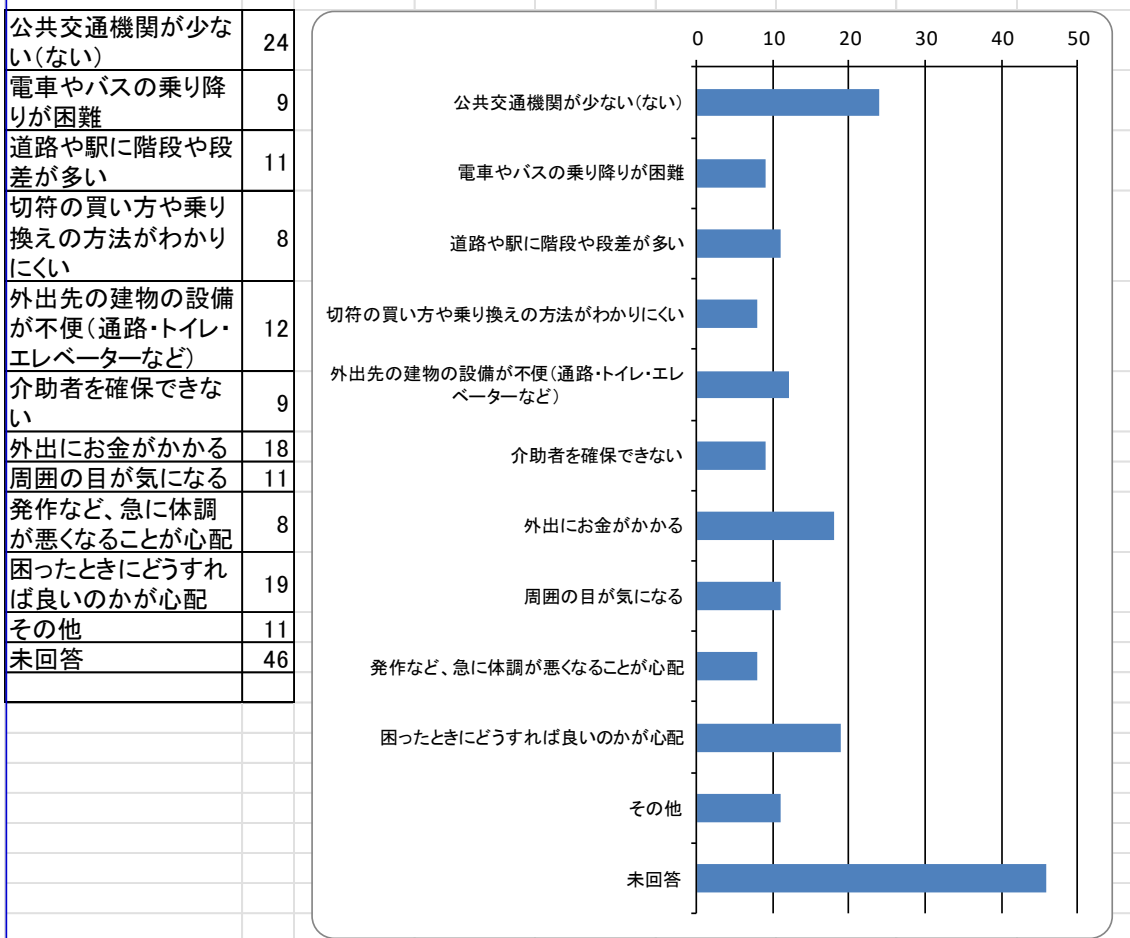
問21 外出するときの交通手段は何ですか。(複数回答)

自家用車・バイク	77
徒歩・自転車	26
バス(みのちゃんバス含む)・電車	12
タクシー	5
その他	14
未回答	11



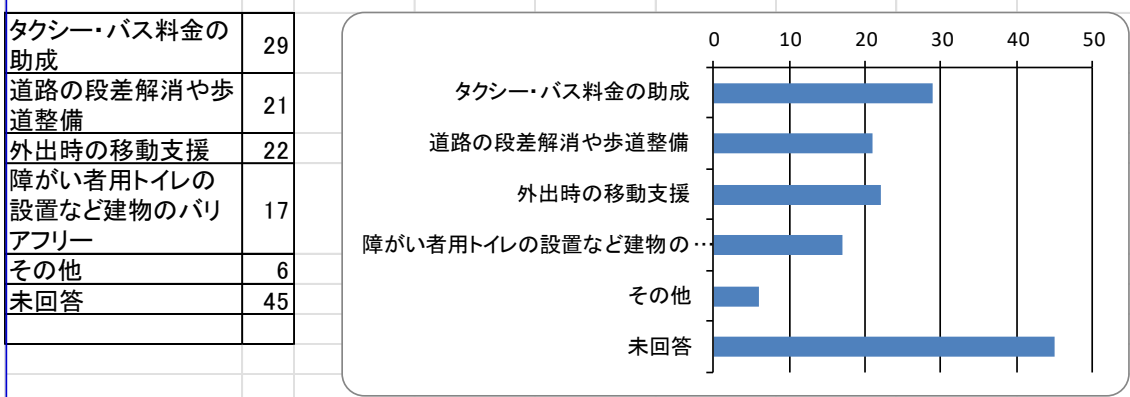
自家用車・バイクの利用が圧倒的に多く、公共交通機関の利用は少ない。

問22 外出するときに困ることは何ですか。(複数回答)



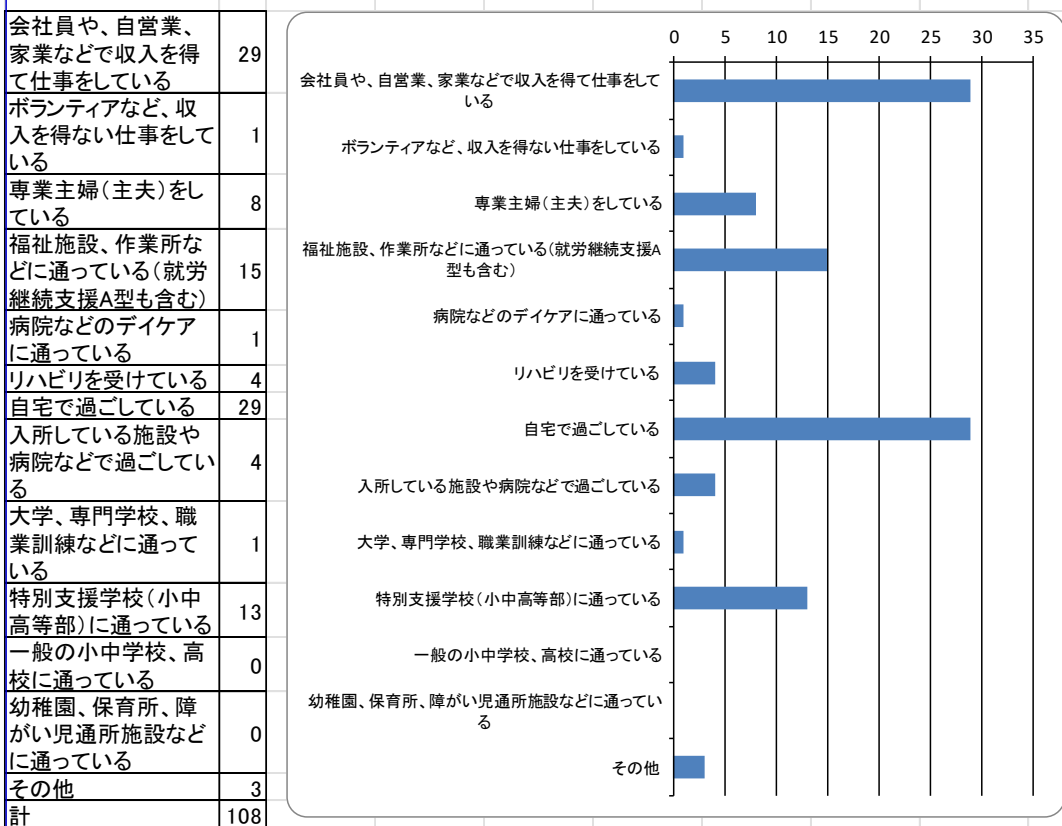
公共交通機関の少なさ、外出費用、困ったときの対応への不安などが主な課題となっている。

問23 外出しやすくするため、整備してほしいことはありますか。(複数回答)



タクシー・バス料金の助成、移動支援、道路の段差解消・歩道整備などへの要望が多い。

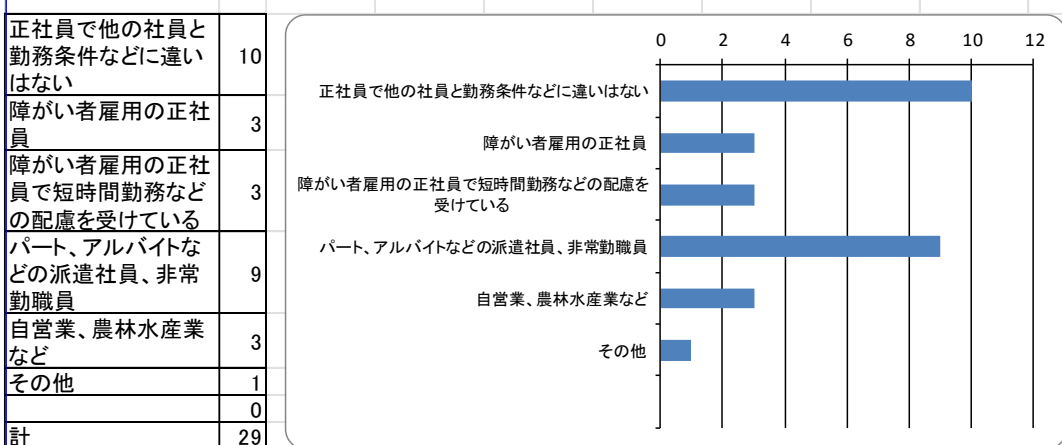
問24 あなたは、日中を主にどのように過ごしていますか。



一般就労している人と自宅で過ごしている人が多く、福祉施設・作業所、特別支援学校などを利用している人もいる。

【問24で、「会社員や、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている」と回答した方】

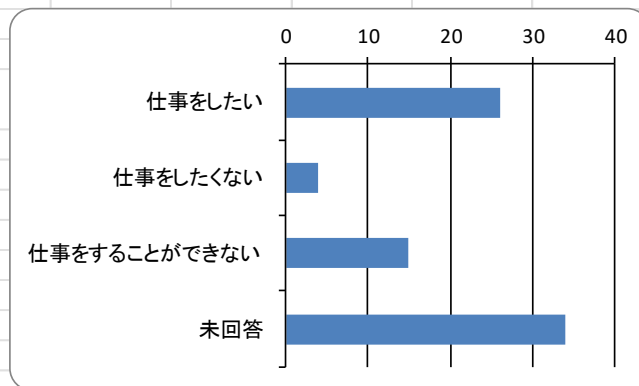
問25 どのような勤務形態で働いていますか。



正社員、障がい者雇用、パート・アルバイト、自営業など、さまざまな形態で就労している。

【問25で、「会社員や、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている」以外の回答をした18～64歳の方】
問26 あなたは今後、収入を得る仕事をしたいと思いますか。

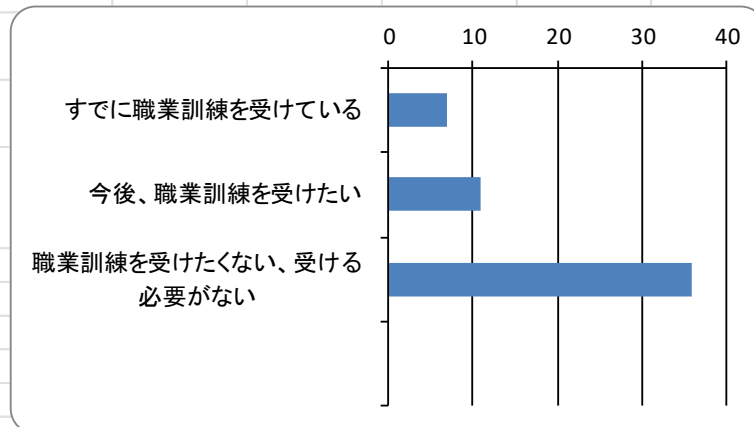
仕事をしたい	26
仕事をしたくない	4
仕事をするのができない	15
未回答	34
計	79



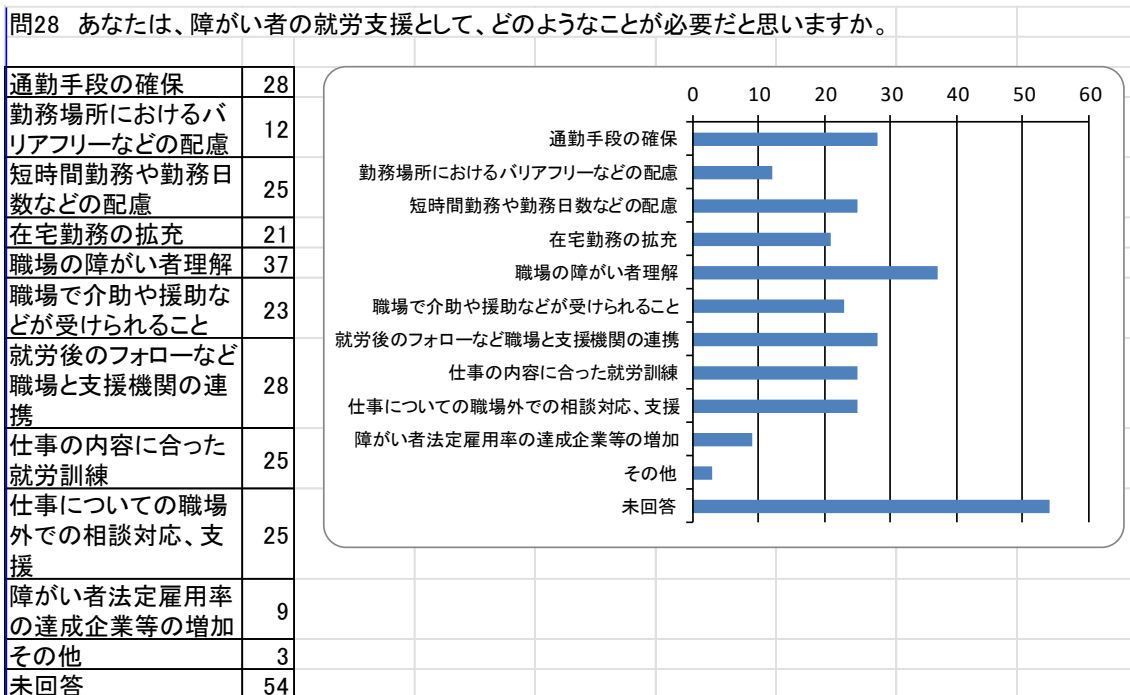
「仕事をしたい」とする人が多く、就労意欲のある人が一定数いる。一方、仕事をするのが難しいと考える人もいる。

問27 収入を得る仕事に就くために、職業訓練を受けたいと思いますか。

すでに職業訓練を受けている	7
今後、職業訓練を受けたい	11
職業訓練を受けたくない、受ける必要がない	36
計	54

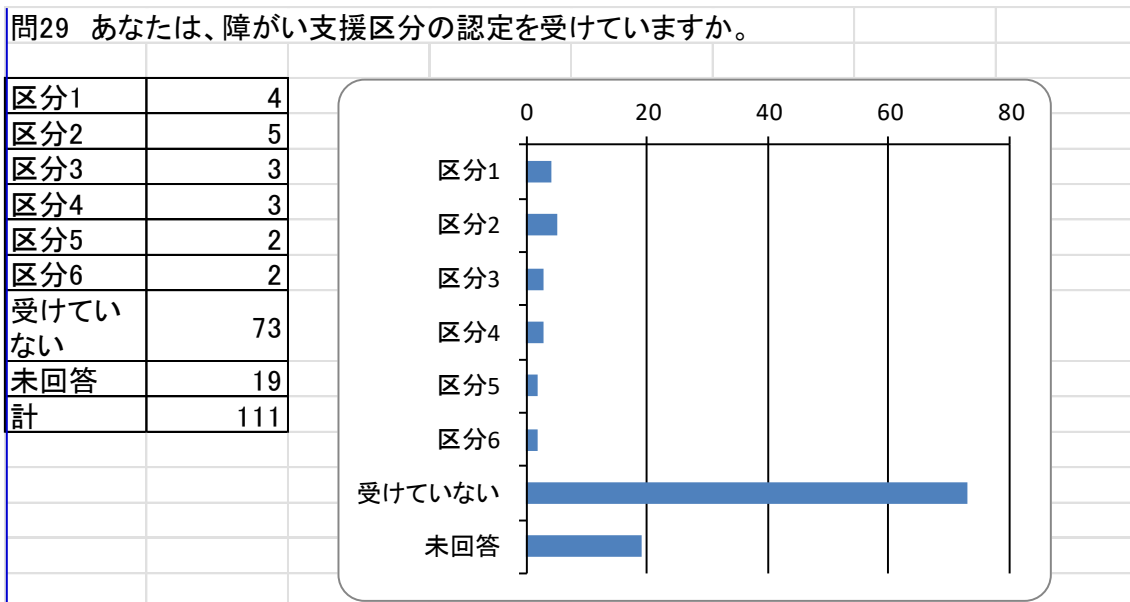


今後職業訓練を受けたい人がいる一方、「必要ない・受けたくない」とする人も多い。



職場での障がい理解、通勤手段の確保、就労後のフォロー、勤務時間への配慮、職業訓練などが求められている。

⑤ 障がい福祉サービスの利用について



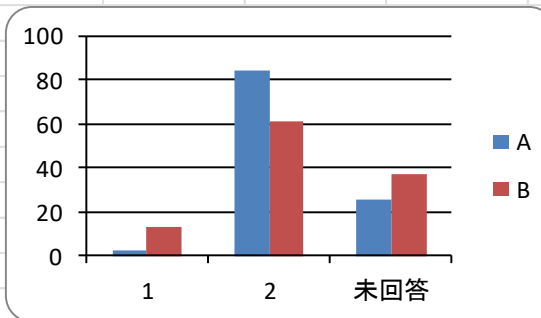
障がい支援区分の認定を受けていない人が多く、認定を受けている人は区分1～6まで幅広い。

問30 あなたは次のサービスを利用していますか。また、今後利用したいと考えていますか。
 (①～⑦のそれぞれについて、「A. 現在利用しているか」「B. 今後利用したいか」両方に回答)

A. 現在利用しているか	1 利用している	B. 今後利用したいか	1 利用したい
	2 利用していない		2 利用したくない

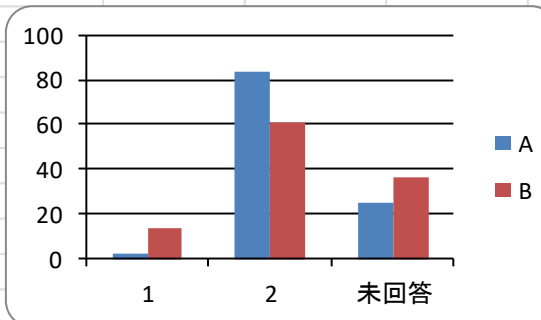
① 居宅介護(ホームヘルプ)

	A	B
1	2	13
2	84	61
未回答	25	37



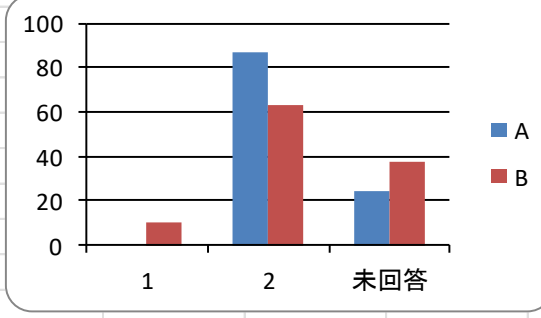
② 重度訪問介護

	A	B
1	2	14
2	84	61
未回答	25	36



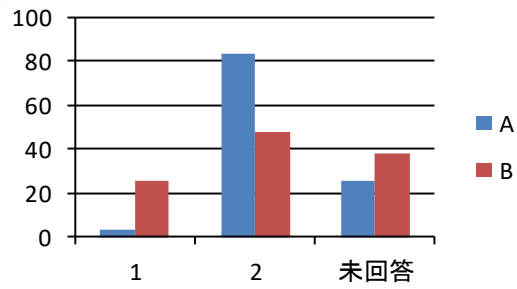
③ 同行援護

	A	B
1	0	10
2	87	63
未回答	24	38



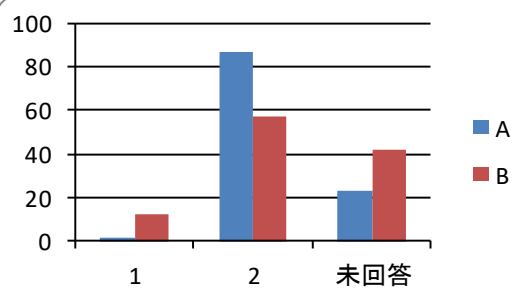
④ 行動援護

	A	B
1	3	25
2	83	48
未回答	25	38



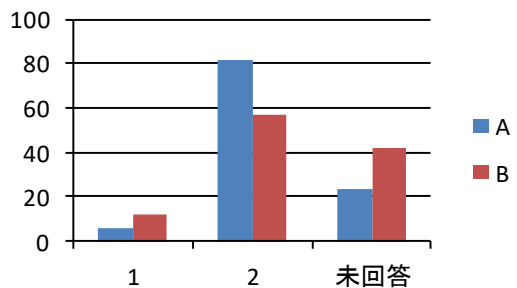
⑤ 重度障害者等包括支援

	A	B
1	1	12
2	87	57
未回答	23	42



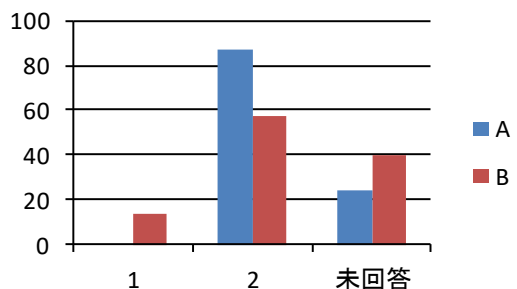
⑥ 短期入所(ショートステイ)

	A	B
1	6	12
2	82	57
未回答	23	42



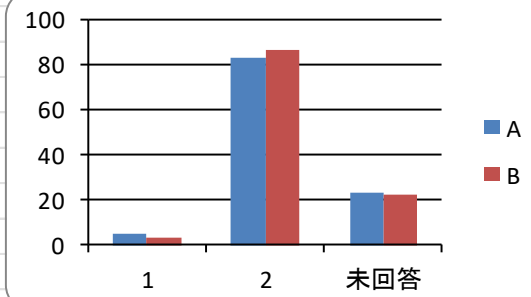
⑦ 療養介護

	A	B
1	0	14
2	87	57
未回答	24	40



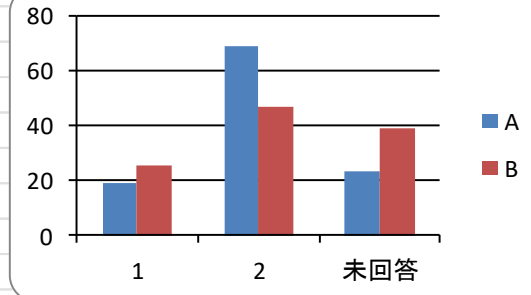
⑧ 生活介護

	A	B
1	5	3
2	83	86
未回答	23	22



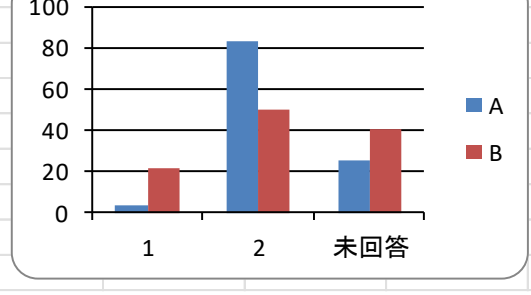
⑨ 施設入所支援

	A	B
1	19	25
2	69	47
未回答	23	39



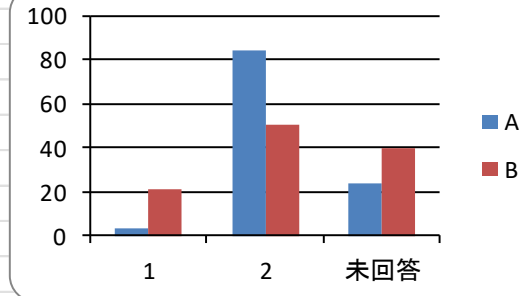
⑩ 自立訓練(機能訓練、生活訓練)

	A	B
1	3	21
2	83	50
未回答	25	40



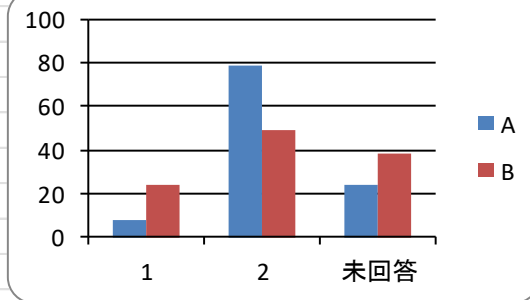
⑪ 就労移行支援

	A	B
1	3	21
2	84	50
未回答	24	40



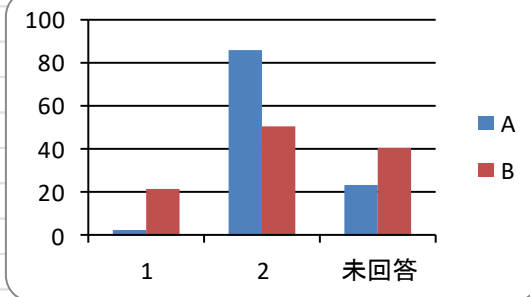
⑫ 就労継続支援(A型、B型)

	A	B
1	8	24
2	79	49
未回答	24	38



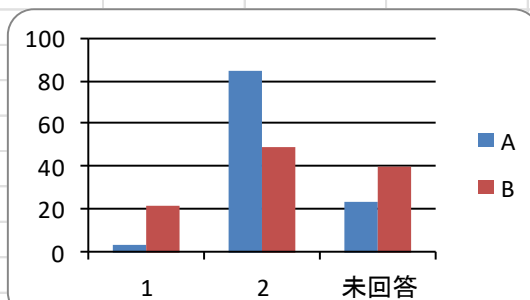
⑬ 就労定着支援

	A	B
1	2	21
2	86	50
未回答	23	40



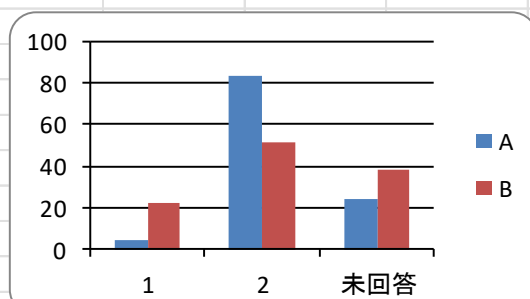
⑭ 自立生活援助

	A	B
1	3	22
2	85	49
未回答	23	40



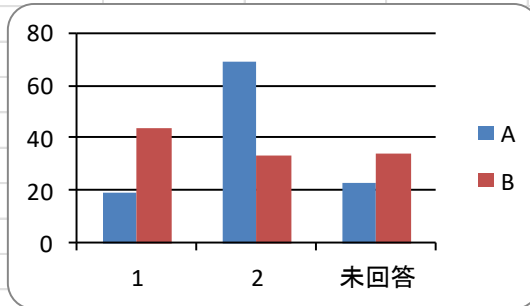
⑮ 共同生活援助(グループホーム)

	A	B
1	4	22
2	83	51
未回答	24	38



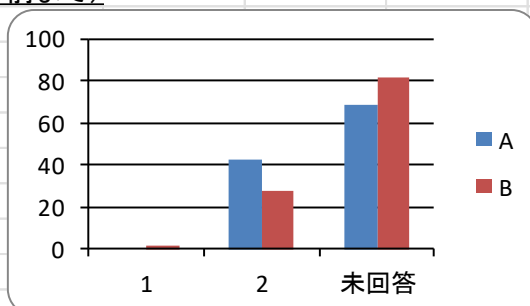
⑩ 相談支援

	A	B
1	19	44
2	69	33
未回答	23	34



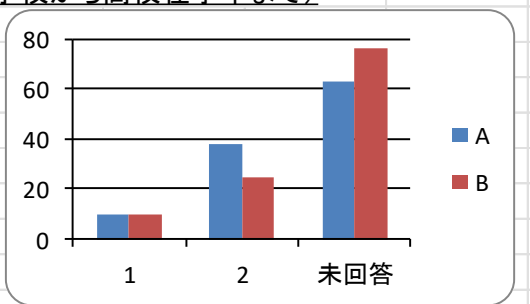
⑪ 児童発達支援(対象:小学校入学前まで)

	A	B
1	0	1
2	42	28
未回答	69	82



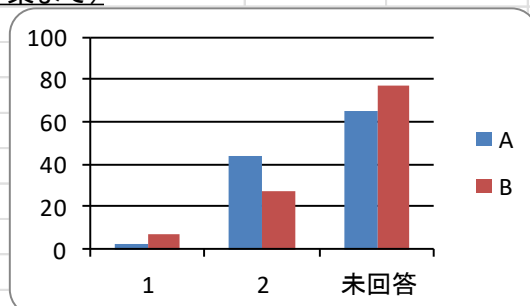
⑫ 放課後等デイサービス(対象:小学校から高校在学中まで)

	A	B
1	10	10
2	38	25
未回答	63	76



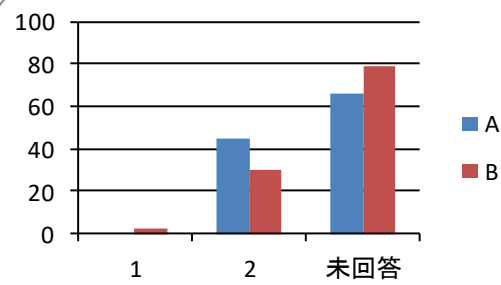
⑬ 保育所等訪問支援(対象:高校卒業まで)

	A	B
1	2	7
2	44	27
未回答	65	77



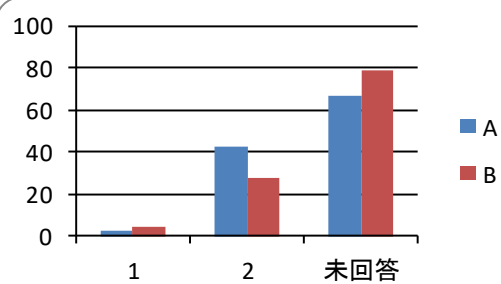
⑳ 居宅訪問型児童発達支援(対象:18歳まで)

	A	B
1	0	2
2	45	30
未回答	66	79



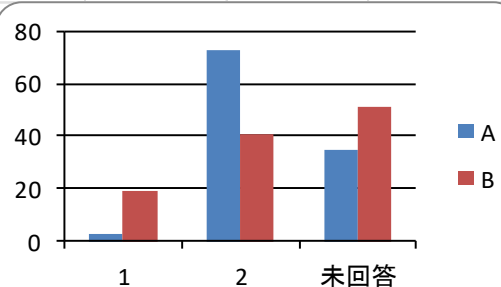
㉑ 医療型児童発達支援(対象:18歳まで)

	A	B
1	2	4
2	42	28
未回答	67	79



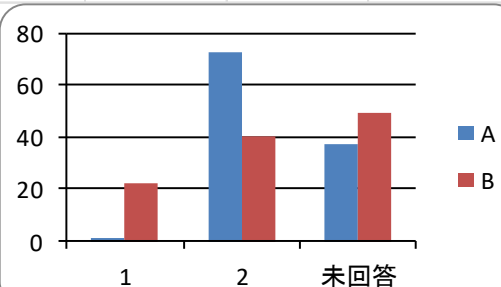
㉒ 移動支援

	A	B
1	3	19
2	73	41
未回答	35	51



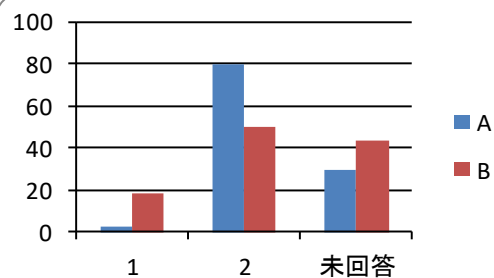
㉓ 日中一次支援

	A	B
1	1	22
2	73	40
未回答	37	49



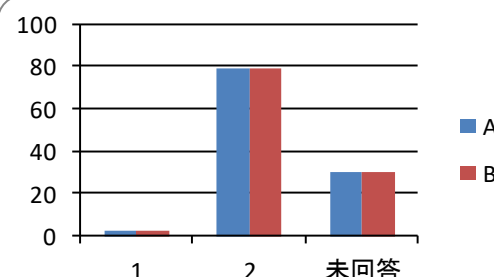
②④ 地域活動支援センター

	A	B
1	2	18
2	80	50
未回答	29	43



②⑤ 訪問入浴

	A	B
1	2	2
2	79	79
未回答	30	30



自由記述欄まとめ

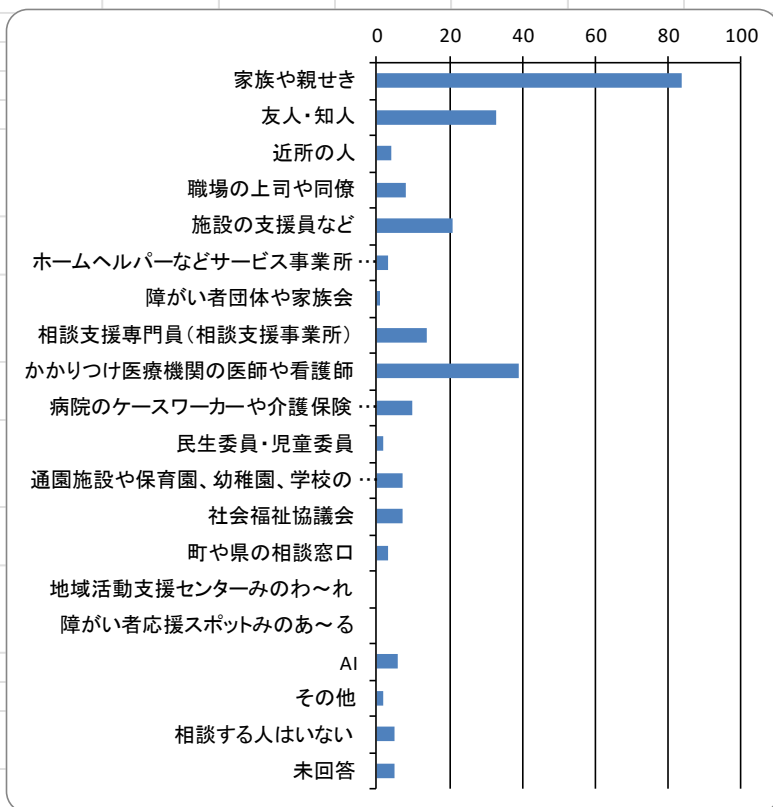
現在のサービスには概ね満足しているとの意見がある一方、放課後等デイサービスについて、医療的ケアに対応できる事業所や利用時間の選択肢が少なく、長期休暇中の開始時間の見直しや利用場所の充実を求める声があります。また、子どもの成長に合わせて ST・PT・OT 等のリハビリを継続して受けられる体制や、進学後も継続した支援を望む意見があります。さらに、将来の状態を想定した回答の難しさ、各種申請の Web 化など、制度や手続きの改善を求める意見もありました。

現在の利用では「施設入所支援」「相談支援」などが比較的多い。今後の利用意向では、相談支援、行動援護、施設入所支援、就労系サービス、グループホームなどに一定のニーズがみられる。

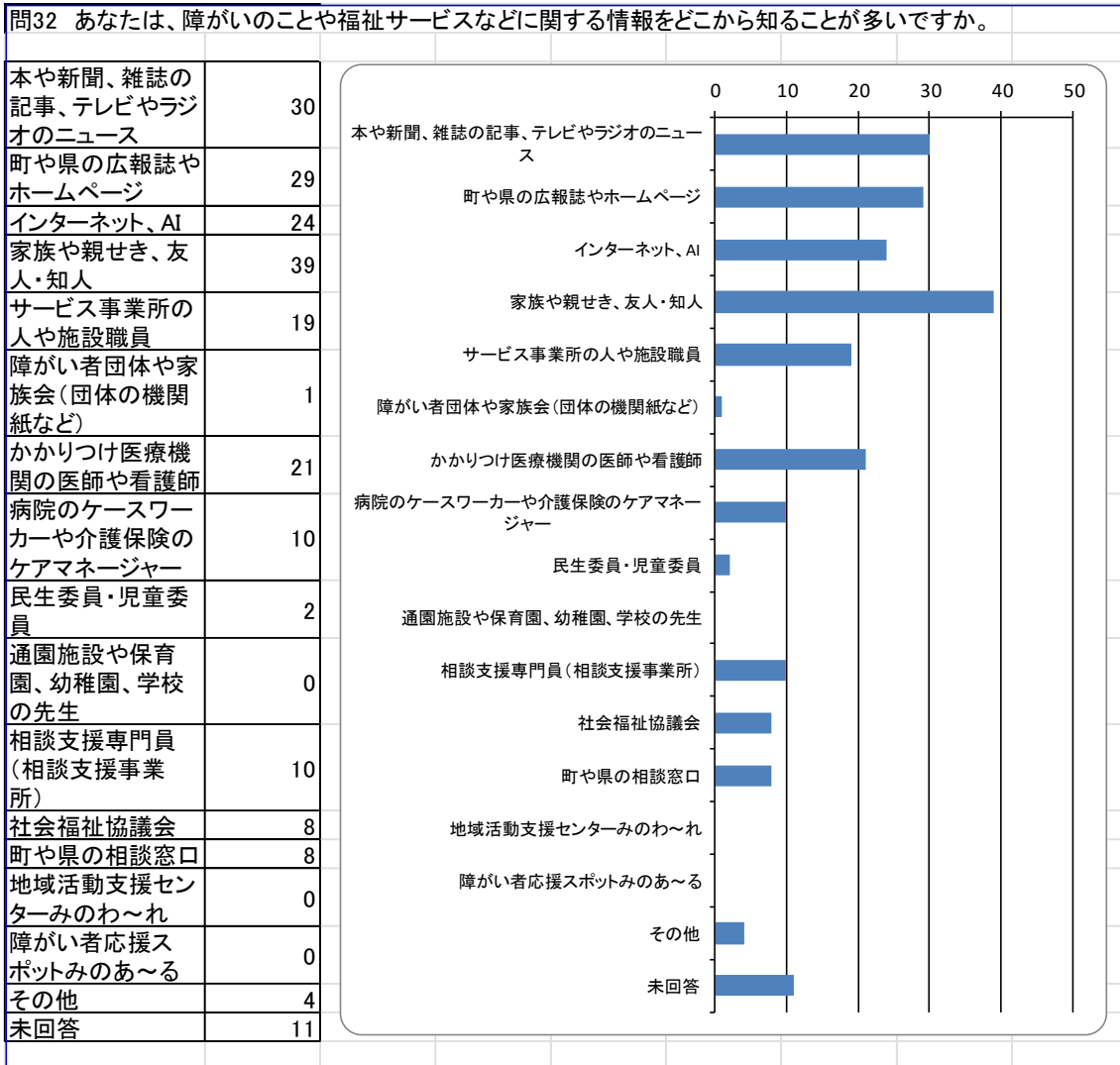
⑥ 相談相手について

問31 あなたは、普段悩みや困ったことを誰に相談しますか。(複数回答)

家族や親せき	84
友人・知人	33
近所の人	4
職場の上司や同僚	8
施設の支援員など	21
ホームヘルパーなどサービス事業所の人	3
障がい者団体や家族会	1
相談支援専門員(相談支援事業所)	14
かかりつけ医療機関の医師や看護師	39
病院のケースワーカーや介護保険のケアマネージャー	10
民生委員・児童委員	2
通園施設や保育園、幼稚園、学校の先生	7
社会福祉協議会	7
町や県の相談窓口	3
地域活動支援センターみのわ〜れ	0
障がい者応援スポットみのあ〜る	0
AI	6
その他	2
相談する人はいない	5
未回答	5



家族・親せきが最も多く、次いで医療機関の医師・看護師、友人・知人などが相談相手となっている。相談支援専門員の利用は一定数ある。

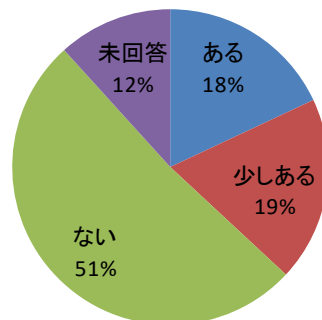


家族・親せき・友人など身近な人から情報を得る人が最も多く、新聞・テレビ、町や県の広報、インターネット・AIなども活用されている。

⑦ 権利擁護について

問33 あなたは、障がいがあることで差別や嫌な思いをする(した)ことがありますか。

ある	20
少しある	21
ない	57
未回答	13
計	111

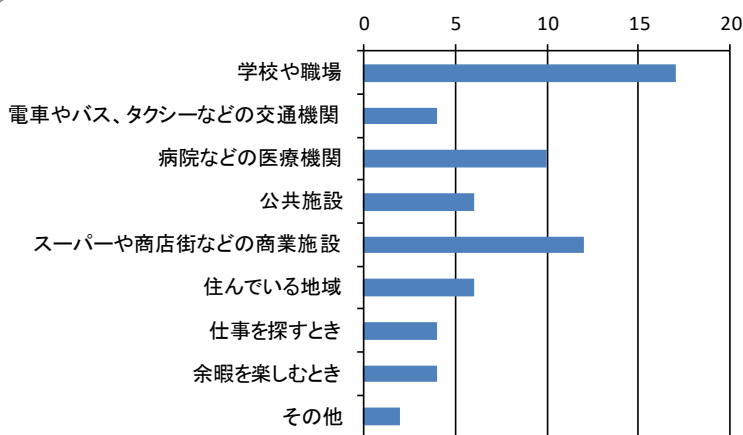


「ある」「少しある」を合わせると 41 人で、障がいを理由とした差別や嫌な思いを経験している人が一定数いる。

【問33で「ある」「少しある」と回答した方】

問34 どのようなところで差別や嫌な思いをしましたか。(複数回答)

学校や職場	17
電車やバス、タクシーなどの交通機関	4
病院などの医療機関	10
公共施設	6
スーパーや商店街などの商業施設	12
住んでいる地域	6
仕事を探するとき	4
余暇を楽しむとき	4
その他	2
計	93

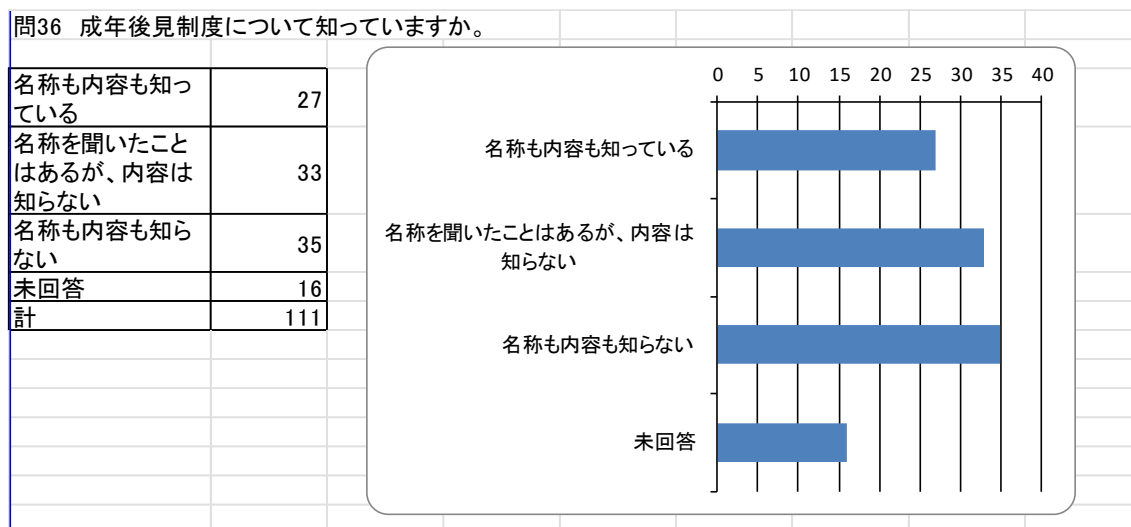


学校・職場が最も多く、次いで商業施設や医療機関などとなっている。

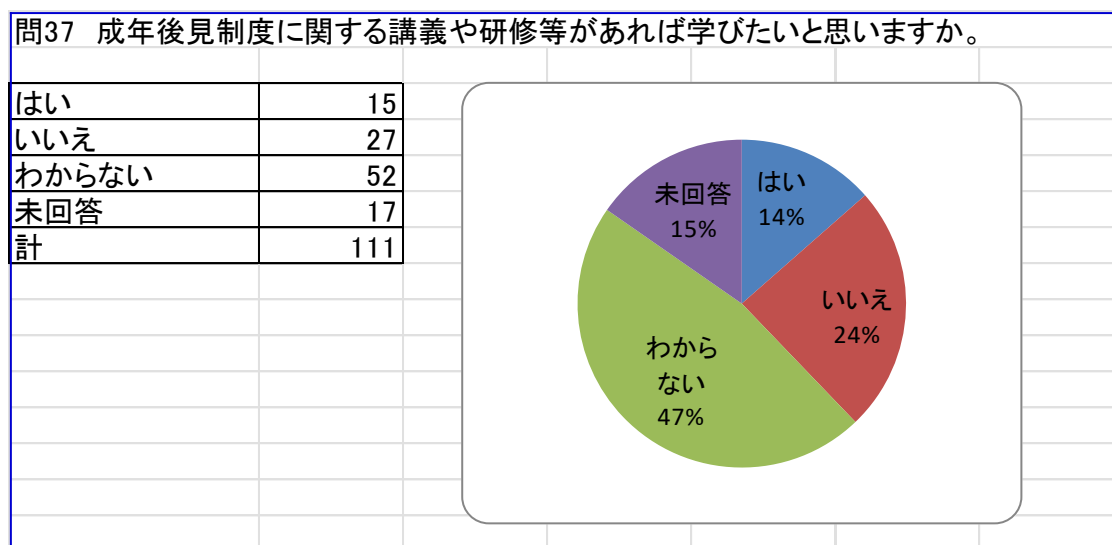
問35 どのようなことがありましたか。(自由記述)

いじめや無視、心ない言葉、じろじろ見られるなど、障がいや病気への理解不足による差別や偏見を経験したという意見が多くありました。また、外見では障がい分かりにくい人への配慮不足や、医療機関・交通機関・店舗・学校・職場等で、障がいや特性を理解されないことによるつらい経験もみられます。さらに、医療的ケアや発達障がい等を理由に福祉サービスの利用を断られたり、利用で

きるサービスが限られたりすることへの不安や、周囲の理解不足から本人や家族が外出・社会参加に不安や負担を感じている状況もみられました。



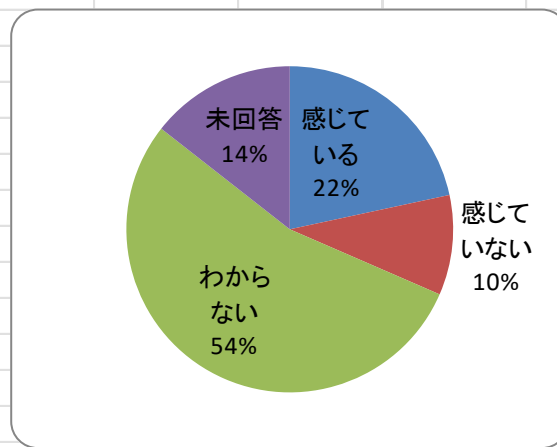
制度の名称・内容を知っている人は27人で、内容を知らない人も多い。



「わからない」が最も多く、制度について学びたいとする人は15人。制度の周知・理解促進が課題となっている。

問38 成年後見制度の必要性を感じていますか。

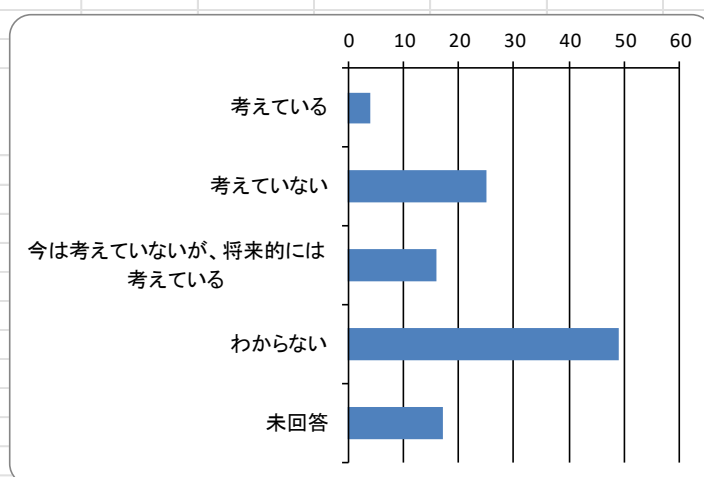
感じている	24
感じていない	11
わからない	60
未回答	16
計	111



「わからない」が最も多く、必要性を感じている人は24人。

問39 成年後見制度の利用を考えていますか。

考えている	4
考えていない	25
今は考えていないが、将来的には考えている	16
わからない	49
未回答	17
計	111

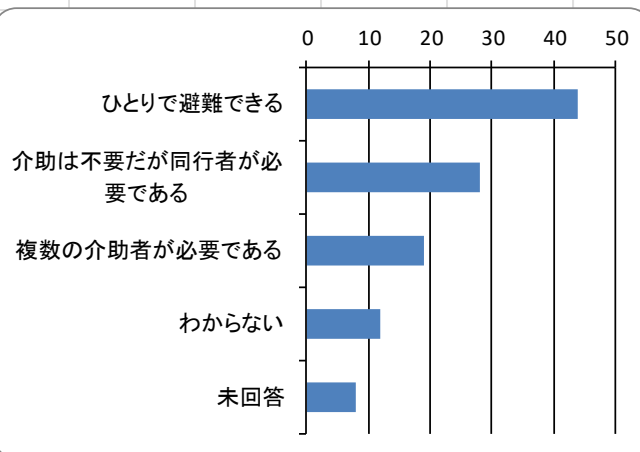


「わからない」が最も多く、将来的には利用を考えている人も16人いる。

⑧ 災害・障がい者理解・交流イベントについて

問40 あなたは、家事や地震、風水害などの災害時に避難できますか。

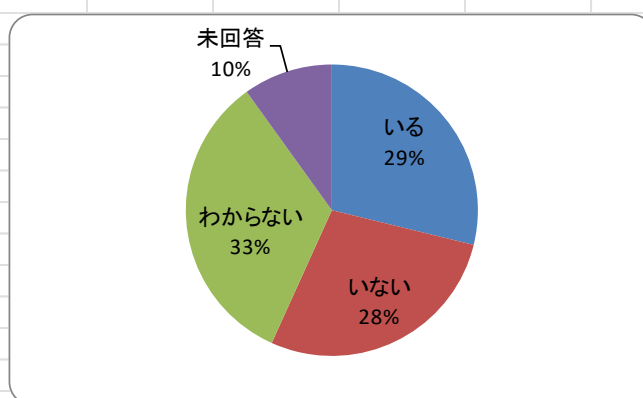
ひとりで避難できる	44
介助は不要だが同行者が必要である	28
複数の介助者が必要である	19
わからない	12
未回答	8
計	111



一人で避難できる人が44人いる一方、同行者や複数の介助者を必要とする人が47人おり、避難支援が必要な人が多い。

問41 家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいますか。

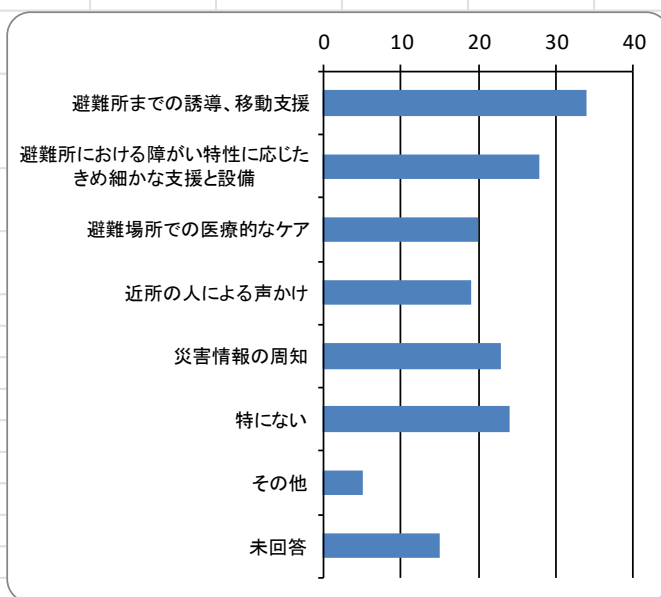
いる	32
いない	31
わからない	37
未回答	11
計	111



近所に助けてくれる人が「いる」人は32人とどまり、「いない」「わからない」が合わせて68人いる。地域での支援体制が課題となっている。

問42 災害時に必要な支援はありますか。

避難所までの誘導、移動支援	34
避難所における障がい特性に応じたきめ細かな支援と設備	28
避難場所での医療的なケア	20
近所の人による声かけ	19
災害情報の周知	23
特にない	24
その他	5
未回答	15

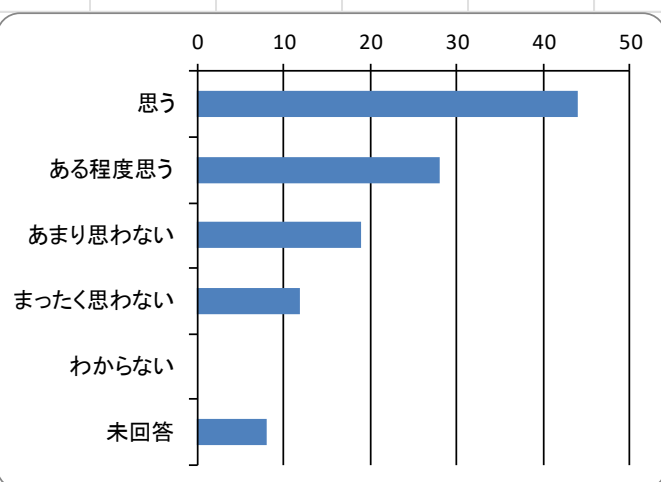


避難所までの誘導・移動支援、避難所での障がい特性に応じた支援・設備、災害情報の周知、医療的ケアなどが求められている。

⑨ 障がい者への理解について

問43 あなたは、障がいのある人への理解が進んできたと思いますか。

思う	44
ある程度思う	28
あまり思わない	19
まったく思わない	12
わからない	0
未回答	8
計	111

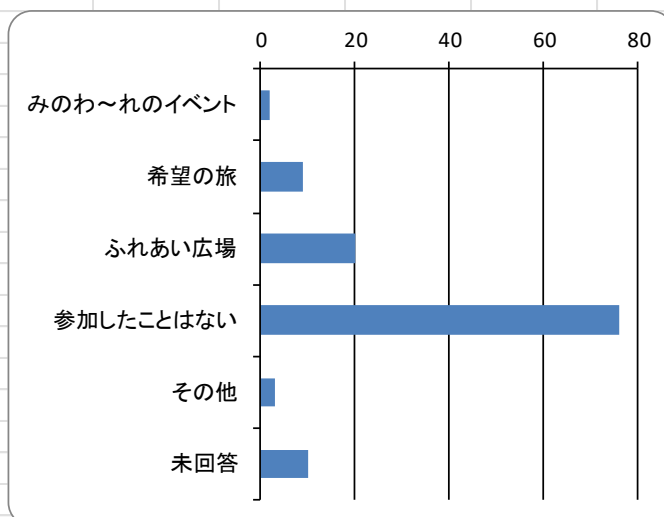


「思う」「ある程度思う」が72人で、障がい者への理解が進んでいると感じる人が多い。一方、理解が進んでいないと感じる人もいる。

⑩ イベントについて

問44 あなたは、障がいのある方もない方も共に参加できるイベントに参加したことはありますか。
(複数回答)

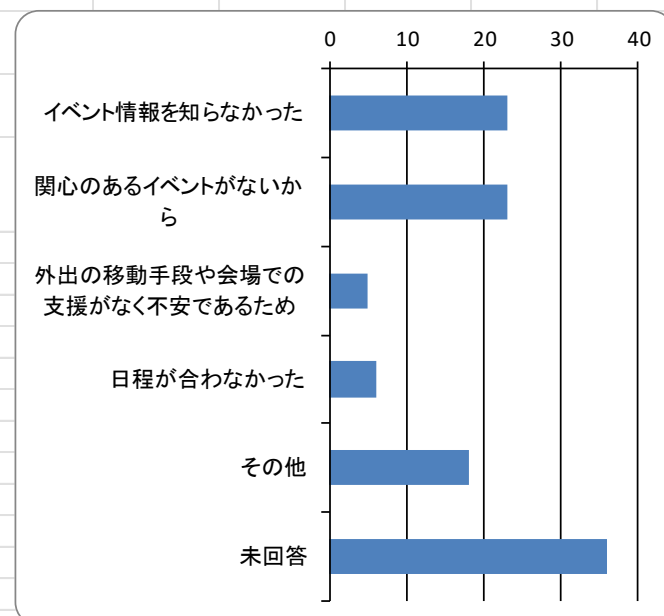
みのわ～れのイベント	2
希望の旅	9
ふれあい広場	20
参加したことはない	76
その他	3
未回答	10



「参加したことはない」が76人と多く、共生型イベントへの参加経験が少ない。
参加経験では「ふれあい広場」が比較的多い。

問45 イベントに参加したことがない方にお聞きます。参加しなかったのはなぜですか。

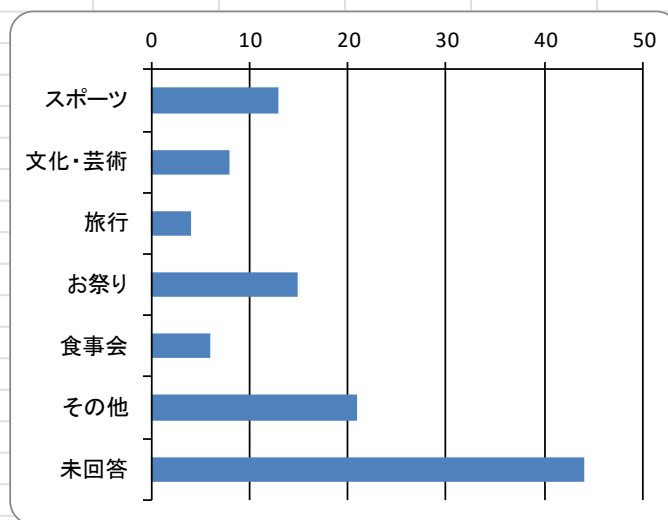
イベント情報を知らなかった	23
関心のあるイベントがないから	23
外出の移動手段や会場での支援がなく不安であるため	5
日程が合わなかった	6
その他	18
未回答	36
計	111



「情報を知らなかった」「関心のあるイベントがない」が主な理由。移動手段や会場での支援への不安もある。

問46 障がいのある方もない方も共に交流できるイベントで、参加してみたいと思うことはありますか。

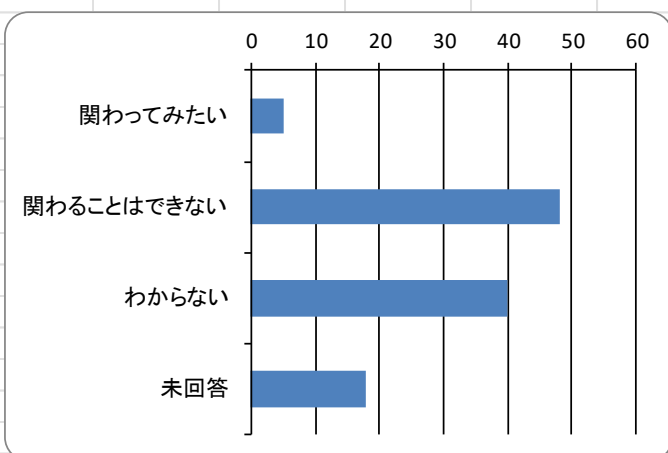
スポーツ	13
文化・芸術	8
旅行	4
お祭り	15
食事会	6
その他	21
未回答	44
計	111



お祭り、スポーツ、文化・芸術などへの参加意向がある。その他の希望も多く、幅広い交流機会が求められている。

問47 自ら交流イベントに企画づくりや運営に関わってみたいと思いますか。

関わってみたい	5
関わることはできない	48
わからない	40
未回答	18
計	111



「関わることはできない」「わからない」が多く、企画・運営への参加意向は現時点では低い。参加しやすい仕組みづくりが必要。

問48 障がい者（児）への理解、交流機会の充実についてご意見をお聞かせください。（自由記述）

障がいの有無にかかわらず、特別扱いせず一人の人として自然に交流できる環境を望む意見が多く、子どもの頃からの交流や学校・保育園等での障がい理解教育の重要性が挙げられました。一方で、障がいや地域とのつながりなどを理由に、地域のイベント等へ参加しにくいという意見もあり、気軽に参加できる交流の場や支援が求められています。また、特別支援学校卒業後の活動・交流の場が少ないことや、若い障がいのある人が地域で生活し続けるための場の充実を求める声もありました。

問49 最後にご意見がありましたら、自由にご記入ください。

障がいのある人や家族の気持ちに寄り添い、障がいの有無にかかわらず誰もが安心して暮らせる地域づくりを求める声が多くありました。また、福祉サービスや制度の周知、相談・支援体制の充実、特別支援学校卒業後の活動・就労の場やグループホーム等の生活基盤の整備、経済的負担への支援を求める意見がありました。さらに、災害時の避難支援や地域とのつながり、学校や地域での交流を通じた障がいへの理解促進を求める声もみられました。一方で、アンケートの設問や回答方法について、障がい特性に配慮した分かりやすい内容や回答方法を求める意見もありました。

アンケート全体から見える主な傾向

今回のアンケートからは、特に次のような課題が見えてきました。

家族が介助・相談・生活を支える中心となっている。

外出では自家用車への依存が高く、移動支援や公共交通の充実が求められている。

就労を希望する人がおり、職場の障がい理解や通勤、就労後の支援が重要。

福祉サービスは相談支援をはじめ、今後の利用ニーズが一定程度ある。

相談先は家族中心で、町の相談窓口や地域活動支援センターの利用は少ない。

差別や嫌な思いを経験した人が一定数おり、特に学校・職場での理解促進が必要。

災害時に一人で避難できない人が多く、地域での避難支援体制が重要。

障がい者への理解は一定程度進んでいるものの、共生イベントへの参加経験は少ない。

イベントについては、情報不足や移動・支援面の不安が参加の妨げになっている。

家族だけに負担を集中させず、地域・行政・医療・福祉が連携した支援体制が必要。

